

日本のスペシャルイベント

「支援リクエスト付カード」で機器がもっと使いやすく変身!!

どなたでも参加できる実証実験のご案内

来る2014年11月4日から14日まで、“Integration toward a Smarter World” - Co-existence and Sustainability -をテーマに東京国際フォーラムでIEC(国際電気標準化会議)東京大会が開催されます。大会期間中、大会ビジネスセンターに隣接したエリアにおいて、**日本のスペシャルイベント**として「支援リクエスト付カード」で、あつという間にその人にとって機器が使いやすく変身するという体験をしていただける実証実験を行います。

1. 最近のIT機器のアクセシビリティ対応の問題点

最近のIT機器などは、その機能が向上するにつれて操作も複雑化しています。一方、これらの操作性を改善するためにアクセシビリティの向上機能をもつパソコンやスマートフォンが出現し、それらをカバーしようとする試みがなされています。

しかしながら、高齢者や障がいのある人が、その機器のいくつかのアクセシビリティ機能から支援機能を選びだして設定するとなると、簡単な作業ではありません。

2. 解決方法

今回のこの実証実験では、その人に対して何らかの支援があれば、もっと簡単に操作が出来るようになるという支援情報を集めてカードなどのメディアに格納し、利用者がその機器を利用するための操作の最初に、メディアに格納してある支援リクエスト情報を機器が読み込み、読み込んだ支援リクエスト情報の中でその機器が利用可能な機能を用いて以降の操作を支援するというものです。いわば、個人専用アクセシビリティ機能の自動設定が可能になります。この仕組みは、国際標準規格ISO/IEC 12905:Enhanced Terminal Accessibility using cardholder preference interfaceに基づいております。今回の実証実験では、メディアにカード及びスマートフォンを用いています。

3. 実証実験の体験が出来る場所と受付

まず、IEC東京大会のビジネスセンター内にある実証実験の受付で、名前とメールアドレスなどを記入の上、ご自身で体験してみたいと思われる支援リクエスト(言語と支援方法の組合せ)を記録したデジタルサイネージ及び電子化メニュー共通の体験用のコンタクトレスICカードを選びます。いくつかの支援リクエストの体験をご希望の方には複数枚をお貸しすることができます。

受付付近にて支援リクエスト対応のデジタルサイネージ3台(それぞれ異なるコンテンツを表示)で、様々な言語及び利用支援に応じた変化を体験することができます。

尚、ATMの実証実験ではカードを管理する都合上、カードは説明員から直接受取り、体験終了後に説明員に返却していただくようになります。

電子化メニューの実証実験のレストランは受付から少し離れていますが、デジタルサイネージで東京国際フォーラム内で体験を利用できるレストランの位置と案内を表示します。

体験後も引き続き利用したいと思われた方には、カードを滞在期間中お貸しすることが可能です。

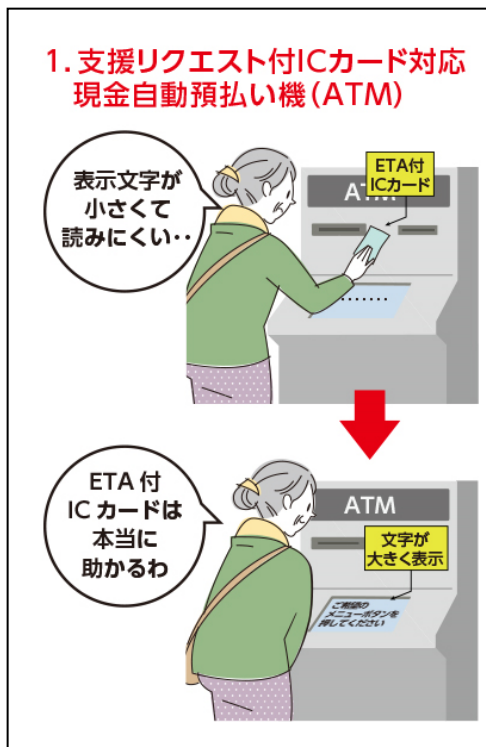
す。ただし、複数枚お持ちの方は、原則として1枚を手元に残して残りをご返却ください。

4. 利用カードの返却

全ての利用が終了しましたら DS3 近くの回収受付にカードをご返却ください。実験用カードと引き換えに、今回の実証実験を記念したお土産用カードと実証実験の内容を詳しく記載したパンフレットを差し上げます。ご質問のある方は、ご遠慮なく係員及び説明員にお尋ねください。

5. 実証実験の内容

支援リクエスト(ETA)対応機器では、次の体験が可能です。



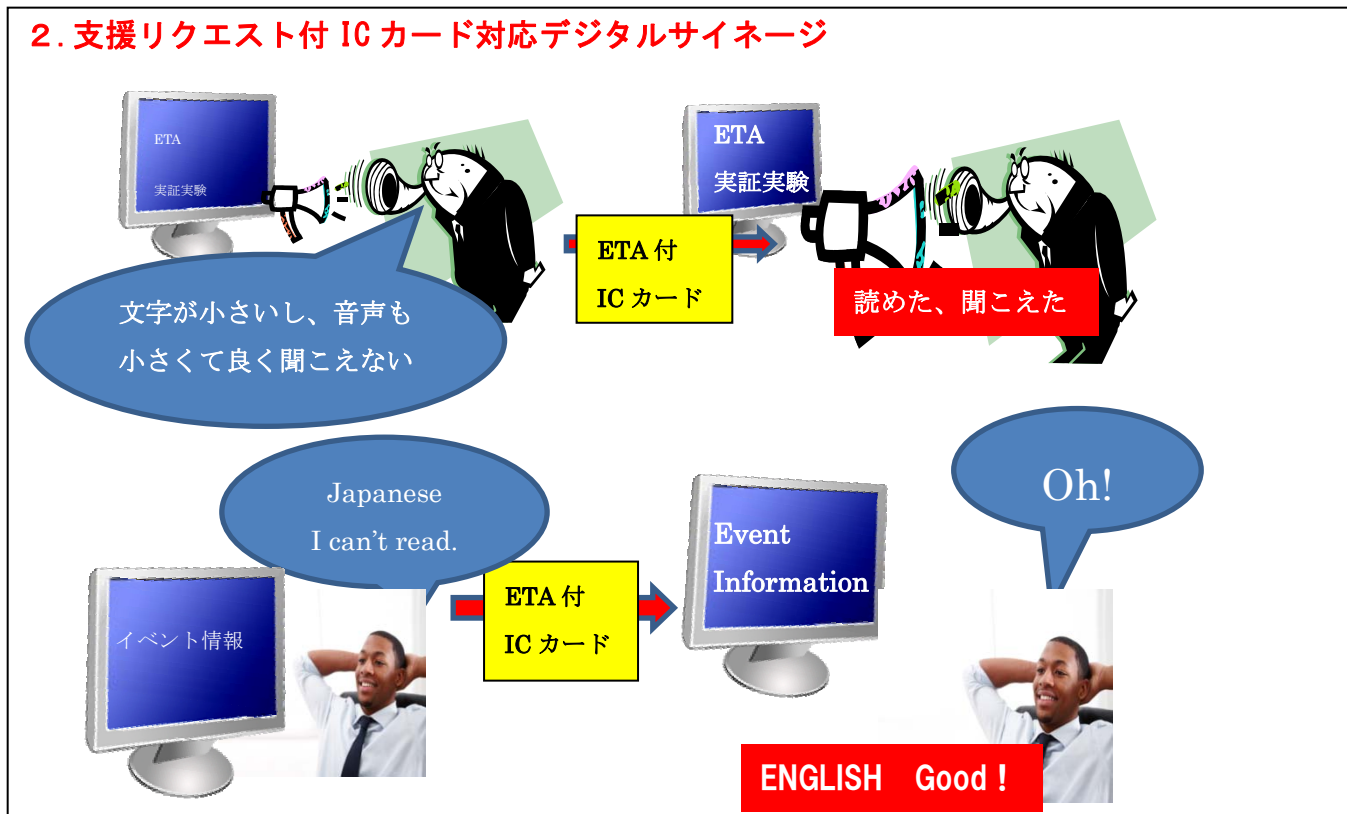
5.1 支援リクエスト(ETA)付ICカード対応模擬ATM

支援リクエストを記録したICカードをATMのリーダーに差し込むと、支援リクエストの言語(日本語、英語、フランス語、ドイツ語を予定)で模擬紙幣を用いたお金の引き出しを体験することができます。高齢者や障がいのある人にやさしい機能である「表示文字を大きく」、「操作をゆっくりできる」、「音声ガイダンスが流れる」などの支援機能が自動的に設定されます。

5.2 支援リクエスト(ETA)付 IC カード対応デジタルサイネージ

従来のデジタルサイネージ(電子広告)では、一方的な表示しかできませんでしたが、支援リクエスト対応デジタルサイネージでは、電子化メニューと共通のコンタクトレス IC カードをリーダーにタッチすることで、利用者に必要な言語(日本語、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語を予定)で表示文字が大きくなったり、白黒反転文字になったり、音声ガイダンスで利用しやすい環境に自動的に設定されます。読み易いイワタ UD フォントで表示します。

2. 支援リクエスト付 IC カード対応デジタルサイネージ



5.3 レストランの電子化メニュー

東京国際フォーラム内の3軒のレストランにおいて、支援リクエスト対応の電子化メニューがご利用になれます。デジタルサイネージと共通のコンタクトレス IC カードを電子化メニューで用いるタブレット PC のリーダーにタッチするだけで利用者に必要な言語で表示文字が大きくなったり、単純な背景となって文字がはっきりと読みやすくなったり、音声ガイダンスで利用しやすい環境に自動的に設定されます。

3. 支援リクエスト付 IC カード対応電子化メニュー



6. もう一つの実証実験 TIM

この実証実験用のカードには、視覚によらず触覚によって自分のカードの種類が識別できるマークが点字3文字分でカードのおもて面の右下部分についています。高齢者や視覚障がいのある人などが自身のカードのマークを指で触ってその種類や機器への挿入方向などを知ることが出来るので、確実に安全なカードの利用が出来る事を実感していただきたいと思います。この仕組みは、国際標準規格 ISO/IEC 7811-9: Tactile Identifier Mark に基づいています。

7. あなたも是非、体験を

この機会に私たちの実証実験にお立ち寄りくださり、それらの便利さを是非とも味わっていただきたくご案内申し上げます。

(一般)ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA)

モニター参加のお問合わせ

カード及びカードシステム部会 ETA 実証実験WG事務局 大野克行

e-MAIL: ohno@jbmia.or.jp

技術的なお問合わせ及びご提案

カード及びカードシステム部会 ETA 実証実験WG主査 寄本義一

e-MAIL: yorimoto@s7.dion.ne.jp

一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)

〒108-0073 東京都港区三田 3-4-10 リーラヒジリザカ 7階

Phone : 03-6809-5010 (代表) FAX : 03-3451-1770

URL : <http://www.jbmia.or.jp>